科目ナンバリング	U-LAS02 20003 LJ35						
授業科目名<英訳>	創造ルネッサンス論A Art History A			担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授　田口　かおり		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	芸術・文学・言語(各論)	使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	水4	配当学年	2回生以上	対象学生	全学向

（総合人間学部の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

私たちはしばしば、美術作品を「読む」という言い方をする。美術作品が「見る」のみならず「読む」対象となりうるのは、何故だろうか。作品を「読む」こと。それは、作品の情報を収集し、整理し、再構成しながら、作品の遍歴と物語を辿る作業である。
制作者、技法、寸法や制作年にはじまり、収蔵先、所蔵者および展示の履歴、修復記録など作品に関連する情報は無数に存在する。これらの情報は、時に、肉眼では見ることのできない在り方で私たちの前に立ち現れることがある。
本授業では、主に保存修復学的な手法を用いて作品を「読む」手法について学ぶ。具体的には、ルネサンスおよびバロック時代に制作されたイタリア絵画を主要な考察対象としながら、作品の内外に紐づけられている情報の鉱脈を探り、解釈を重ねることを試みる。

[到達目標]

1. 芸術学特有の基本的な用語や考え方を理解する
2. 作品に親しみ、名称、作者、時代、表現の特徴や影響関係について理解し、知識を深める
3. 1と2を踏まえて、それぞれの作品及び作者の個性や、時代、社会との関わりなどについて各自が考え、自らの言葉で説明することができる
4. 情報の収集の仕方、また、確実な情報に基づく調査研究の方法を学び、自らの考えを論理的に組み立てる方法を実践的に身につける

[授業計画と内容]

第1回：イントロダクション
第2回：レオナルド・ダ・ヴィンチ《最後の晩餐》――オリジナルの領域
第3回：ピエロ・デッラ・フランチェスカ《キリストの鞭打ち》――補彩と断絶
第4回：ラファエロ・サンツィオ《大公の聖母》――加筆と収蔵の経緯
第5回：ラファエロ・サンツィオ《一角獣を抱く貴婦人》――洗浄と描き変え
第6回：ミケランジェロ・ブオナローティ《原罪》《楽園追放》――洗浄と加筆
第7回：ミケランジェロ・ブオナローティ《ピエタ》――修復の領域
第8回：アントネッロ・ダ・メッシーナ《受胎告知》――補彩と断絶
第9回：ジョヴァンニ・ベッリーニ《牧草地の聖母》――支持体移動
第10回：ティツィアーノ・ヴェチェッリオ《バッカスとアリアドネ》――洗浄狂想曲
第11回：ティツィアーノ・ヴェチェッリオ《バッカスとアリアドネ》――洗浄狂想曲２
第12回：ミケランジェロ・メリージ・ダ・カラヴァッジョ《聖マタイの召命》――マタイ問題
第13回：ミケランジェロ・メリージ・ダ・カラヴァッジョ《ナルキッソス》――X線の射程
第14回：アルテミジア・ジェンティレスキ《スザンナと長老》への応答――X線上の亡霊
第15回：フィードバック

創造ルネッサンス論A(2)へ続く↓↓↓

創造ルネッサンス論Ａ(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

成績は平常点５０％（毎回授業後のコメントシートの提出）、学期末レポート５０％で評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

・授業後に提出するコメントシートを書くなかで、講義で扱ったテーマについて考察を深め復習する（60分ほど）
・次回の授業テーマについて予習を行う（30分ほど）

[その他（オフィスアワー等）]

授業前後の時間に対応します。
個別の連絡手段（メールアドレスなど）は初回の授業の際に伝えますので、必ず出席をお願いします。

[主要授業科目（学部・学科名）]